

P1~3 広重の旅

P4 ミニ企画展 戦前から戦後の学校教育  
ミニ企画展 近江燕村 九老・金谷  
—ユニークな文人画家—

P5 学芸員のノートから

P6 収蔵品紹介

# 大津歴博 だより



## 広重の旅

浮世絵・近江・街道

平成27年7月25日(土)~8月30日(日)



上：広重の名所風景版画の傑作！【保永堂板】近江八景之内瀬田夕照（部分） 個人蔵

下：五十三次最大の宿場ならではの壮観な旅館街！木曾海道六拾九次之内大津（部分） 本館蔵



①



②

日本を代表する浮世絵師、歌川広重 (1797-1858)。海外では「霧と雪と雨の芸術家」と讃えられました。江戸時代、全国の名所を、豊かな情景描写で作品化した彼の功績は、浮世絵師の中でも突出しています。そして、近江の名所風景も、青年期から最晩年にいたるまで描きつづけています。

傑作とされる【保永堂板】東海道五拾三次、「【保永堂・栄久堂板】近江八景之内」を初め、広重は、まるで旅番組のカメラマン兼ディレクターのように、臨場感あふれる近江の街道・名所風景の姿を切り取っています。

本展では、館蔵の広重作品と共に、貴重な初摺作品が目白押しの草津市所蔵の広重作品群を一堂に展示し、近江の街道・名所風景の世界を紹介します。

あわせて、街道・名所の絵巻・屏風作品を展示し、皆様に江戸時代の近江の街道・名所にいざないます。

- ・本展では、合計200点あまりの作品が出陳！
- ・代表作の【保永堂板】五十三次以外にも、普段あまり展示されない別バージョンの五十三次も展示。



③

① 諸国六玉川 近江野路之玉川 (草津市蔵)

和歌のテーマである諸国六玉川。広重も、あえて、日常的な名所絵表現ではなく、王朝趣味的に山水草花を描き、公家たちを登場させています。

② 東海道五拾三次之内 水口【保永堂板】 (草津市蔵)

水口干瓢は、桃山時代の水口大岡山城主、長束正家が、栽培を奨励したとの伝承があります。大きな夕顔の実を幅3cm、薄さ2-3mmの帯状に剥き、ムラのないようずらして天日干してます。

③ 東海道名所図絵 (草津市蔵)

狂歌師や数寄者たちの狂歌集として版行された贅沢な名所絵狂歌集。色摺りや情景表現を、さらに上品な仕様で仕上げています。



④



⑤



⑥



⑦

④ 五十三次名所図会 五十四 大津 (本館蔵)

今では、見られない高層建築のない観音堂からの琵琶湖眺望。このアングルは、明治期に外国人向けの土産物として流行した名所写真で一般的になりましたが、広重はすでに採り上げていました。

⑤ 五十三次張交 十四 京・大津・草津 (草津市蔵)

ご当地のイチオシ名物にも、しっかり注目していた広重。京では四条河原の川床。大津は大津絵 (俳句は芭蕉の大津絵の俳句)。草津は何と、考古学者・木内石亭の奇石コレクション (公開していたのでしょうか)。

⑥ 【有田板】 東海道五十三次之内 京・大津 (草津市蔵)

未裁断の四丁切 (写真は部分) のこぶりな作品。この手の作品は、一枚づつ購入するものではなく、まとめ買い用の揃い物錦絵。凝った技法の摺りもなく単純明快。そのため、かえってポップで現代的な表現に近づいています。要は簡易版五十三次なのですが、現存数は少なく珍品。

⑦ 本朝三景之内 近江八景寄縮一覽 (本館蔵)

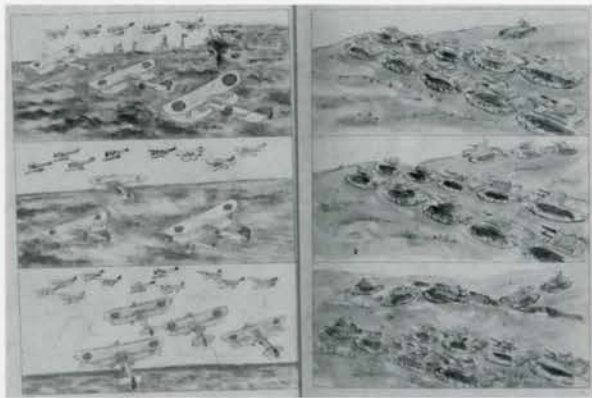
広重は、晩年に、豎大判三枚続きによるパノラマの画面で描く大作名所絵を手がけていますが、他の浮世絵師が、俯瞰図的にパノラマ名所絵を描いていたのとは異なり、あくまでも、その名所の特徴的な景観を、パノラマ画面で際立たせるための手法でした。本作も、広大な琵琶湖を前にして、中央に比叡山を据える、見事な構図を見せています。

## 戦前から戦後の学校教育

会期：7月28日(火)～9月6日(日)

昭和20年8月15日の終戦の日を挟んで、日本の学校教育の制度や内容は180度の転換を見せました。戦前から戦中にかけては、「御真影」や「教育勅語」の崇拜が義務づけられ、教育内容も、戦争の遂行が主な目的とされました。しかし終戦後には、戦前の学校教育が大きく見なおされ、占領軍総司令部の指導を主として「民主教育」の徹底が図られたのです。

本展では、子どもたちが学習した戦前の「国定教科書」や、日常生活の中で国策遂行のために作られた「戦時教育紙芝居」、瀬田国民学校の児童が描いた絵日記、また、戦後の学校教育を象徴する「墨塗り教科書」や戦後の一時期に発行された折りたたみ式の「暫定教科書」などを展示することで、子どもたちが体験した激動の時代の学校教育を紹介します。



国定教科書「カズノホン」 昭和16年発行 本館蔵  
「数」の勉強にも戦車や飛行機の絵が使われている。

## 近江蕪村 九老・金谷 —ユニークな文人画家—

会期：9月8日(火)～10月12日(月・祝)

今年、生誕300年を迎える与謝蕪村(1715～83)は、俳諧の巨匠である一方、先進の絵画スタイルであった文人画の立役者としても著名です。そして大津では、18世紀末から19世紀前半、近江蕪村と呼ばれる文人画家が活躍しました。ひとり、呉春と並ぶ蕪村門高弟の紀樞亭(九老)。おおらかでほのぼのとした作風で大津の町衆に愛されました。時を隔てずして、蕪村に私淑した横井金谷は、坂本に庵を結び、その奔放な人柄で人々に愛され、地元にも多くの作品を残しました。

兩人に共通するのは、ひとえに、人物も作風も非常にユニークだという点です。蕪村風の作品以外に、個性あふれる作品が多く、海外にも多数の作品が渡っています。本展では、単なる蕪村の弟子・追随者にとどまらない、現代感覚にも通じる彼らの文人画世界を紹介いたします。



蜀道積雪図 横井金谷筆  
本館蔵



秋野双狼図(部分)  
紀樞亭筆 本館蔵

## 「江若鉄道の思い出」展に集まった思い出

今春に開催した企画展「江若鉄道の思い出」は、盛況のうちに終了しました。会場内では「にぎやかにお話しください」という案内をしたこともあり、終日お越しいただいた方々の懐かしい思い出話があちこちで聞こえていました。

タイトルにも示したとおり、本展は江若鉄道の思い出をみなさんと共有することを意図して企画しました。そのため、展示の中に通常の展覧会ではしない工夫をいくつか施しました。

ひとつ目は、展示資料の解説文を所蔵者の方々の資料に対する思いを交えて書くように心がけたことです。それは、なぜそれらを記録されたのかを、その方にとっての江若鉄道の思い出として紹介したかったからです。また、会期中は所蔵者の方々が何度もお越しになり、ご自身の資料について当時の様子や思い出話を直接ご説明いただくことがありました。

ふたつ目は、展示の中にみなさんの思い出話を可視化したことです。これは、会場にお越しいただいたみなさんの思い出をメモにお書きいただき、会場内に貼りだしてみなさんと共有する試みです。当館の古写真の展示では定番になった仕掛けですが、「展示＝見るもの」というイメージのせいか、なかなかお書きいただけないのがこれまででした。そこで今回は、平成18年の「ありし日の江若鉄道」展の際にいただいた思い出をパネルにして、会場内のあちこちに掲出しました。それらが呼び水になったのか、会期中に集まった思い出は200枚を越え、用意した大きな壁を埋め尽くしました。

今回の展覧会は、みなさんにご参加いただくことで様々な思い出が集まり、往時の江若鉄道がよみがえったような、これまでにない空間を作ることができました。江若鉄道の利用者だけでなく、当時を知らない方からも「見たことのない鉄道の残り香を感じることができました。」という感想をいただいたのが、担当者として一番の喜びでした。今後も思い出を共有できるような展覧会を次々と企画していきたいと考えています。ご協力いただいた方々には、改めて深く感謝申し上げます。

なお、本展は本年9月に高島市に巡回する計画を現在進めています。また、会期中にいただいた思い出メモは鋭意整理中です。後日、改めて公開いたしますので楽しみに。

(本館学芸員 木津勝)



壁いっぱいになった思い出メモ



模型の周囲が一番賑やかでした

# 東海道五拾三次之内 土山【保永堂板】

歌川広重(初代)画 江戸時代(19世紀) 本館蔵



板元保永堂から天保4年(1833)に版行が始まった歌川広重(1797-1858)の代表作「東海道五拾三次之内【保永堂板】」。土山における情景描写は、保永堂板五十三次の中でも評価の高いもののひとつです。土山は、江戸中期以降流行した、鈴鹿馬子唄の歌詞「坂は照る照る 鈴鹿は曇る あいの土山雨が降る」で知られた宿場で、広重お得意の、線條表現による強い雨足が本作の見せ場です。向かい雨を受けて、さらに宿場本陣へと街道を急ぐ大名行列。合羽を羽織った先頭の槍持ち奴たちが、うつむき加減なのは、夕暮れ前で、一日行軍した疲労がピークに達しているからでしょう。寡黙になった行列に向かって、大雨で増水した田村川が勢いを増して響き、向こう岸の田村神社の社は薄暗く、行列の雨合羽が鮮やかに映える。街道の往来のひとコマが広重のセンスによって、見事に演出された好例といえます。

ちなみに、本展ではこの土山が2点展示されます。もう1点は草津市所蔵の初摺。掲載作品は少し後に摺られた異版です。詳しい比較は、ぜひ展覧会会場で、にらめっこしながらなさってください。

(本館学芸員 横谷賢一郎)

## 利用案内



### 交通機関

- ・京阪電鉄石山坂本線別所駅 徒歩5分
- ・JR大津駅 徒歩15分
- ・JR大津駅、バス10分別所下車

■駐車場 約70台(無料)

### ■常設展示観覧料

区分	個人	団体(15名以上)
一般	270円	210円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	130円	100円

- ◆大津市内在住の65歳以上の方、市内在住の障害者の方は無料。
- ◆三二企画展は、常設展観覧料でご覧いただけます。
- ◆企画展の観覧料については、その都度定めます。

### ■開館時間

午前9時～午後5時(展示室への入場は午後4時30分まで)

### ■休館日

月曜日(祝日・振替休日の場合は開館し、翌日が休館)  
 祝日の翌日(土・日曜日の場合は開館)  
 年末年始(12月27日～1月5日)  
 その他、業務の都合により休館する場合があります。

### —— 歴博カードのご案内 ——

当館主催の展覧館を自由にご観覧いただける定期観覧券です。また、当館発行の出版物や催し物の割引、様々な情報のご案内など、多くの特典を設けております。(1年間有効)

料金	一般	高大学	小中学
	2,000円	1,500円	1,000円

★詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。



## 大津市歴史博物館

〒520-0037 滋賀県大津市御陵町2番2号  
 TEL 077-521-2100 FAX 077-521-2666  
<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>